用例分析に基づく国語辞典情報の見直し（その4）　―競技の言葉に注目―

国立国語研究所オープンハウス2022　2022/9/9

柏野　和佳子（国立国語研究所）

1. どこで、どう、使われているのか？　用例を検索する

『中納言』
https://chunagon.ninjal.ac.jp/

『NINJAL-LWP』
http://nlb.ninjal.ac.jp/search/

『次世代デジタルライブラリー』
https://lab.ndl.go.jp/dl/fulltext

『YAHOO!リアルタイム検索』
https://search.yahoo.co.jp/#!/realtime

2.「そろい踏み」?!

2022年6月11日（土）
『朝日新聞』朝刊17面、野球の記事

ヤクルトの村上選手が4回にホームランを打ち、8回に山田選手がホームランを打ったことを

「主砲2人がそろい踏み。」

と表現。

3.「そろい踏み」とは

そろいぶみ【揃い踏み】

①相撲すもうで、複数の力士がそろって四股を踏むこと。「三役の―」

②有名人などが一堂に会すること。「総選挙を目前にして党首の―」

［岩波国語辞典 第八版］

4.『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の「そろい踏み」の用例

民主、自由、社民の野党3党首がそろい踏み
全国遊説スタート（大分）
PN1d_00006,『産経新聞』, 2001

《失われた大陸シリーズ》《オカルト・四次元シリーズ》の既刊分の題名がずらりと揃い踏み。
LBo0_00018, 牧眞司
『ブックハンターの冒険』学陽書房, 2000

インテルが誇るスーパースター3人が揃い踏みした究極の一枚だ。
PM31_00851,
『POPEYE』マガジンハウス, 2003

今日は、帆船2艘揃い踏みの写真です。
OY11_04140,
『Yahoo!ブログ』, 2008

5.「続投」とは

ぞくとう【続投】

①野球で、投手が交代せずに投げ続けること。

②転じて、任期の区切りになっても役職を退かずそのまま続けること。

［岩波国語辞典 第八版］

6.『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の「続投」の用例

野村続投ならトレードを覚悟していた
PM21_00530,
『週刊ポスト』小学館, 2002

党内には来年九月の自民総裁任期切れ以降も続投を望む声が根強い
PN5i_00013,『新潟日報』, 2005

あまりのハマリ役のためにルーカスはTVシリーズ化を決定してリヴァーに続投をオファーした
PB37_00097,『リヴァー・フェニックスの伝説』近代映画社, 2003

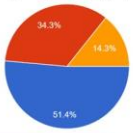
「強化委員会の評価としては、今後も続投して欲しい。二千二年を目指してくれないか」と、そう言いました。あの時はまだお互いに、ビールも何も飲まずに話しましたね。岡田監督からは、会見でお話した通りの返事を受けました。「結果が出なかったのだから責任をまっとうしたい」ということですね。その時点では、「わかった。答えは預かる」ということで部屋を出ました。あの時点では、監督の退任の意志は確かに固かった。でも我々としては本当に続投をしてもらいたかったし、将来のためにも何としても残ってもらいたかった。
LBo0_00018, 増島みどり/大仁邦彌
『6月の軌跡』文藝春秋, 2001

野球の監督

サッカーの監督

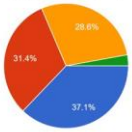
7. 大学生にきいてみると

「そろい踏み」（比喩的に）



「そろい踏み」は「揃って同じ地面を踏む」ような様子が想像でき、比喩的な使われ方でも全く違和感がない。でも「続投」は「続けて投げる」なので、ピッチャーの方が想像しやすく、比喩的な意味の方に少し違和感がある。

「続投」（比喩的に）



あまり相撲や野球の話をしないので、どちらも比喩的な意味でしか捉えておらず、特にそろい踏みは相撲用語としての意味は知らなかったので、興味深い。

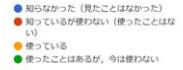


図　都内大学生35人の回答

どちらも初めて聞く言葉。「そろい踏み」は元々は相撲のときに使われていたということに興味が湧いた。
「続投」をサッカーの監督が使うこともあるというのも面白い。

8. 国語辞典へ新しい意味・用法・用例追記の検討

そろいぶみ【揃い踏み】

①相撲すもうで、複数の力士がそろって四股を踏むこと。「三役の―」

②有名人などが一堂に会すること。「総選挙を目前にして党首の―」▽注目される人が一斉に力を発揮することにもいう。「主力選手二人が―」「実力派俳優―の映画」

③一か所に合い、見ごたえがあること。「梅の花が紅白―」「受賞作品が―」

ぞくとう【続投】

①野球で、投手が交代せずに投げ続けること。「九回裏からの―になる」

②転じて、任期の区切りになっても役を退かずそのまま続けること。「監督の―が決定」「首相―を表明」「主役の―が望まれる」▽同じ支配状態が続くことにもいう。「体制の―」「政権の―」

比喩的用法をもつ競技の言葉 ほかの例　相撲：揚げ足、勇み足、痛み分け、いなす、うっちゃる、がっぷり、禁じ手、金星、黒星、白星、腰砕け、死に体、土付かず、土俵、土俵際、粘り腰、八百長、横綱、寄り切る、四つに組む、相撲に勝って勝負に負ける、相撲にならぬ、土がつく　野球：完封、外野、キャッチボール、全力投球、代打、ピンチヒッター、直球、変化球、登板、降板、トップバッター、ヒット、封殺、リードオフマン　競争：デッドヒート、バトンタッチ、ゴール、ゴールイン、スタートライン、ラストスパート、ハードル、駆け足　サッカー：アウェー、イエローカード、レッドカード　ボクシング：KO、ノックアウト、パンチ　柔道・剣道：一本、技あり　体操：ウルトラC　（『岩波国語辞典』第八版、『広辞苑』第七版より）

ただいま観察中…
「ポシャる」「おじゃん（になる）」「アベックホームラン」「芯を食う」「メロい」「はたまた」「不安しかない」「骨感」「肉感」「人権ある」「人権ない」